

地域との意見交換会結果概要

1 趣旨

新たな観光戦略の策定にあたり、各地域の現状・課題・特性等を把握するとともに、観光戦略の議論の方向性を共有し、策定後の各地域との協働を期するため、各県民局・センター協力のもと、意見交換会を実施

2 対象

各県民局・センター管内の広域観光協議会などにおける構成メンバー 総数98団体120名と議論

3 県関係出席者

観光振興課、各県民局・センター

ひょうご観光本部（事業推進部長、古田ツーリズムプロデューサー、江藤CMO）

4 当日の概要

新たな観光戦略の方向性や兵庫DCに向けた取組状況を説明の上、意見交換

主な意見

- 「HYOGOブランド」の確立は簡単ではない。五国の特徴を活かした各地域にあるブランドの集合体が「HYOGOブランド」になるのではないか。
- 既に行われてきた取組（域内調達率が高い温泉地、化石燃料に頼らないまち等）でSDGs目標に資するものがあり、これらを見える化し、サステナブルな観光地としてアピールをしていきたい
- 高付加価値・長期滞在が重要とはいえど、エリアによっては地理的・交通的条件から大阪圏を中心とした日帰り観光のウエイトが多くならざるを得ない構造があることに留意すべきではないか。
- 地域間を結ぶ広域面、地域内の狭域面ともに二次交通が不十分で周遊につながりにくい。

神戸

【実施日時】令和4年6月1日

【参加団体】神戸地域DC推進協議会構成員

(神戸市、神戸観光局、神戸商工会議所 3団体6名)

- 「HYOGOブランド」の創出はなかなか難しい。「兵庫」という言葉を有名にするよりも、五国からなる個々の地域の集合体としての「兵庫」がブランドになるのではないかな。
- 「兵庫テロワール旅」の理念そのものには共感するが、一般の方は「テロワール」という言葉そのものに馴染みがない。この言葉のイメージ戦略を強化することが、ブランディングに繋がる。
- 満足度が高いのに消費単価が低いのは、後背地人口が多く、近隣からの旅行者が多いのも関係しているだろう。後背地の多い都市部にあるがゆえにコンテンツを磨き上げるチャンスが多く、インバウンドにも繋がる。
- ユニバーサルツーリズムは高齢化に伴い大きな市場になり、推進すれば遠方から多くの来訪が期待できる。神戸市内の事業者の機運も高い他、2024年世界パラ陸上神戸開催もあり、今後も連携しながら取り組みたい。
- 垂水から須磨にかけてのように海を見ながら通勤できる路線はほとんどなく、他の都市部にはない大きな魅力。高架から見る六甲山や海など景色も良く、混雑している路線ではあるが、観光列車が走れば人気が出るのではないかな。
- 神戸空港は都心や新幹線が近く、ゲートウェイとしての役割を意識しながら、利便性を追求するビジネス層や富裕層のニーズに合うように活かせるのではないかな。
- 神戸はヘルスケアやメディカルが強みなので、国内や海外の富裕層をターゲットに誘客できるのではないかな。
- 万博には期待をしているが、いかに各地を巡ってもらえるようにするかを、神戸だけではなく視野を広げて考えていかなければいけない。

阪神南 阪神北

【実施日時】令和4年6月1日

【参加団体】阪神地域DC推進協議会構成員

(尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町、あまがさき観光局、西宮観光協会、川西市観光協会、三田市観光協会、猪名川町観光協会、尼崎商工会議所、宝塚商工会議所、三田市商工会 15団体15名)

- 尼崎では尼崎城を売り出していきたい。また、食と産業観光を交えたモデルツアーを実施しており、ものづくり体験を通じて、次世代の人材も育てていきたい。
- 西宮には西宮神社、甲子園球場や酒蔵など観光資源はあるが、文教住宅都市宣言の下発展してきたため宿泊施設が少ない他、地域住民に観光産業が身近ではない。また、西宮神社は正月など特定の時期に来訪が集中している。コロナ禍を機に県立甲山森林公園への来客が増え、活用を検討している。
- 伊丹は「酒と文化の薫るまち」というテーマのもと市立伊丹ミュージアムが完成したように、コンテンツの中心は日本遺産に認定された日本酒になる。コンパクトな市ではあるが、伊丹空港も地域資源として活かしていきたい。
- 宝塚は宝塚歌劇の印象が強いが、宝塚温泉や歴史ある寺社仏閣も位置し、伝統の植木産業も全国的に有名。コロナ禍で生活スタイルが変わり、植木関連の事業所に来訪が増加（室内観賞用商品）。歌劇に頼りすぎずコンテンツを磨き上げ、ウェルネスツーリズムを中心に戦略を展開していきたい。
- 川西は清和源氏発祥の地として、茶道や武士と繋げてPRしたいがどのようにストーリー立ててコンテンツとして実装するかが課題。また、日帰りしか難しく、宿泊や飲食がなかなか伴わないため消費額が少ないのが現状。
- 三田は住宅都市として発展。アウトレットや有馬温泉などの観光地はあるが、周遊してもらえないところが課題だ。さんだまち博の第二回を今年度も予定しており、新しいコンテンツの創出や事業者のビジネスチャンスに繋げたい。
- 猪名川町は「自然好きが集まる猪名川まるごとオープンフィールド」というテーマのもと観光に取り組んでいる。大野山アルプスランドでは天文台、キャンプ場や恋人の聖地の魅力発信に注力。天文台開設時からアクセスのあり方など、地域住民と一緒に議論を重ねて培っており、開設後のイベントでは地域の子供も熱心に参加するなど、地域との共創で作り上げた。また、ソロキャンパーの聖地で21時以降は焚火を消す暗黙のルールが遵守されるなど過去から現在に至る経緯も含め魅力を伝えたい

東播磨

【実施日時】令和4年5月31日

【参加団体】東播磨産業・ツーリズム振興協議会構成員

(明石市、加古川市、高砂市、稲美町、明石観光協会、加古川観光協会、高砂市観光交流ビューロー、明石商工会議所、加古川商工会議所、高砂商工会議所、稲美町商工会、播磨町商工会 12団体15名)

- 14年前のDCでは、期間中より**終了後の反響**が大きく、旅行会社やメディアからの問い合わせが相次いだ。今回のDCでも、終了後に**継続して効果**を挙げていけるようにしたい。
- **明石**は、事業者によっては元々観光客向けに開放する意図で事業をしていない考えの方も存在し、インバウンドに特化した取組は今後も難しいかもしれないが、**国内の方を大切にしつつ、少しずつ外国人への対応も広げていきたい。**
ユニバーサルツーリズムに非常に力を入れている。スロープ設置への補助金助成などを行うなかで、お客が増えたお店もある。老若男女すべての方に楽しんでもらえるような観光地にするのはもとより、**他市町でも広がってほしい**
- **加古川**ではDCをきっかけに**鶴林寺、高松味噌での味噌づくり体験や岡田本家の酒づくり体験**などの観光コンテンツを掘り起こした。職員も知らなかったものも存在し、**掘り起こしの重要性を実感している。****高御位や升田山の登山道、北部地域平荘湖辺りのレジャー**などといった**既存の観光資源も活用していきたい。**
ベルデモールにあるかつめし像が壊されたが、ネガティブな事実をきっかけに事件としてではなく「そもそもかつめしとは」をニュースで解説いただいた結果、来訪につながるなど、**認知を高めるきっかけは様々。**
- **高砂**には宿泊や食事の施設があまりないため、**神戸に泊まっていた後に来ていただきたい。**高砂だけではなく、**室津や赤穂と結んだ線としての企画**もあり、最近は特に50代以上の主婦に**古民家カフェ**が非常に人気だ。また、フラットな地形を活かして、鹿嶋神社や石の宝殿など**点在している遺産を結ぶ自転車ツーリズム**を進めている。
- **稲美町**は**農産物が豊富で都会に近い**ことを活かし、生産農家と実際に話せる日帰りバスツアーを実施している。好評ではあるが、道路が狭く、**大型バスルートの設定が難しい**ことが課題だ。
- **播磨町**に地場産業はないが、**海に面していることを活かし、企画を考えていきたい。**

北播磨

【実施日時】令和4年4月25日

【参加団体】北播磨広域観光協議会構成員

(西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町、西脇市観光協会

加西市観光協会、加東市観光協会、吉川町商工会、加東市商工会 11団体16名)

- 西脇には玉木新雌の播州織などの地場産業や、山田錦、ゴルフなどを活用し、SDGs 未来都市としてもSDGsを意識した体験型観光を作り上げていきたい。
- 三木は金物づくりが有名であり、ものづくりの観点からマイ箸づくりを推進している。
- 吉川町は交通の便が悪く、町も小さいが、山田錦のお酢のブランド化、西山牧場やながしお農場などの地元有力企業と連携したお土産を作ったりしている。また、地元のお店10店舗ほどが集まった食のイベントも実施している。
- 小野では金物やそろばんを海外にも売り出しているが、職人の高齢化が進み、観光のニーズに応えにくくなっている。ニーズに対応できて観光客を呼び込めるものとして、マラソン、山登りやサイクルツーリズムなどのスポーツがある。
- 加西の鶉野飛行場跡にミュージアムがオープンし、多くの方に来てもらっているため、ここを拠点に山田錦、ぶどうやワイナリーなどを売りにして、市内を巡回していく仕組みを作っていきたい。また、サイクルツーリズムにも力を入れている他、3セク鉄道と連携している。北条鉄道にキハ40を導入した際には、予想以上の方に来ていただいた。
- 加東ではサイクルツーリズムに力を入れており、Eバイクも整備している。また、新たな特産品としてもち麦の開発に取り組んでおり、黄金色に輝く畑とサイクルツアーを繋げたいが、時期が限られるうえ、ガイド不足で安全面が懸念される。コロナ禍でもゴルフは人気で、過去最高の来場者となったゴルフ場もある。交通の便の問題はあるが、田舎が注目されていると感じている。
- 多可町では、核となる神戸や姫路からいかに誘客するかが重要。モノ消費をきっかけに魅力を伝えるのも重要で、ラベンダーパーク多可では地域おこし協力隊とイベントをし、商品の出品に加えその背景等も紹介をしてPRした。

中播磨

【実施日時】令和4年5月20日

【参加団体】西播磨観光協議会構成員

(姫路市、福崎町、市川町、神河町、姫路商工会議所、姫路市商工会、神河町商工会、姫路観光コンベンションビューロー、神河町観光協会、株式会社JTB姫路支店、株式会社日本旅行姫路支店、山陽電気鉄道株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、神姫観光株式会社、姫路・西はりま地場産業センター、姫路旅館ホテル生活衛生同業組合、家島観光事業組合、姫路青年会議所、播但沿線活性化協議会 19団体19名)

- **姫路には宿泊施設が集まっている。姫路を宿泊のハブとして、赤穂、たつの、福崎、三木、高砂、加古川、明石と播磨地域を周遊**するような企画ができれば面白い。
- 文科省が教育指導要領で、**SDGsを踏まえた教育旅行**をするよう明記している。**姫路としても課題**だと思っており、**姫路城**に来ていただくための**SDGsでの理由**を示さなければいけない。MICEでも**CO2ゼロMICE**というホテルのプランが**とても売れている**。特に**企業や学校などの組織**は、**SDGsの観点から購入の仕方を変えて**きている。
- **神河町はアウトドア**が盛んで、**GWはコロナ以前よりも人が増えた**。日本人をターゲットに、**新婚旅行、金婚式や銀婚式**で企画すれば、兵庫県に**複数泊**していただけるのではないかと。**SDGs**では、都市部では難しいコンテンツとして、**食品残渣を活用する会社**が夏にオープンしたり、**昆虫食を扱う業者**に来てもらったりしている。また、**揚水発電所**があり、**砥峰高原**では草木が生えないように**地元住民が管理**をしている。
- **市川町**では三木市や神戸市と連携し、**ゴルフツーリズム**をPRしている。**産業ツーリズム**として**ゴルフ場や工場の見学**も可能だ。
- **福崎町**は**柳田國男先生縁の地**として、国の補助で**文化観光推進地域計画**を進めている。
- 兵庫県は**南北の交通が遮断**されてしまっている。神戸-姫路間は交通の便がいいが、姫路から城崎へ行くのにかなり時間がかかってしまうため、なかなか**周遊してもらえない**。**播但線を観光列車**が走り、**姫路城・竹田城・城崎と結べば**魅力的なのではないか。
- **お酒、そうめん、革**など兵庫県の中でも**地場産業の多い**地域である。**姫革**のように、**この地域でしか手に入らないモノ**に**兵庫テロワール**旅をきっかけに**興味**を持ってもらいたい。
- 個人客の戻りの動きは見られるが、団体客にも戻りがくことを期待している。
- 兵庫県はあまり認知度が低い。**広島県**や**岡山県**から来る方も多いため、**瀬戸内との連携**をより一層進めたほうがよいのではないかと。
- **関西圏**の方は、「いつでもいける」という思考が働くため、**兵庫県になかなか2、3泊していただけない**。**滞在型**を増やそうとするのであれば、**首都圏などの遠方にターゲット**を絞ったほうがよいだろう。

西播磨

【実施日時】令和4年5月25日

【参加団体】西播磨ツーリズム協議会構成員

(たつの市、赤穂市、宍粟市、太子町、上郡町、佐用町、
赤穂観光協会、しそ森林王国観光協会、太子町観光協会 9団体9名)

- たつの市の日本遺産「室津の北前船関連文化財」や、国の重要伝統的建造物保存地区に選定された「重伝建の町並み」への訪問が確実に増えている。民間事業者の取組が先行しており、行政はできる範囲で取り組んでいるのが現状。
- 赤穂は忠臣蔵や塩が有名であるが、観光地としての認知度は低いため、アクションプログラムを策定し、観光コンテンツとして活用してきた。また、若い世代が少ない点が課題であるため、海をイメージした町として、海岸線を重点エリアとし、まずは赤穂の認知度を上げ、若い方をターゲットに来てもらう戦略。牡蠣が有名であるが、夏のコンテンツが少ないため、アウトドアの動画を作成するなど、体験型コンテンツにも力を入れる。
- 宍粟ではサイクルツーリズムに力を入れており、Eバイクの整備を進めている。特色である林道を走るコースと森林セラピーを連携させ、セラピーバイクとして売り出している。かつてからあった音水溪谷の森林鉄道遺構に、こうした新たなコンテンツをうまく組み合わせ、体験型コンテンツを進めていきたい。食や温泉がなく、新たなコンテンツを作るうえでは、宍粟にしかないものを商品化していきたい。また、関係者で課題を把握し、情報を発信するためのプラットフォームを立ち上げる予定。
- 太子町では、古民家再生で特色ある飲食店街を創出したい。また、「山城復活プロジェクト」の沿線周遊コースに含めていただいたため、通過型にはなるが、観光スポットとして選んでもらえるように取り組んでいきたい。
- 上郡町には撮り鉄やサイクリストが訪れており、サイクルツアーも存在。また、「山城復活プロジェクト」に関連して、武将赤松円心を売りにしており、兜などをPRしている。
- 佐用町には国史跡に指定された利神城、平福の宿場町やひまわり畑などの魅力的な観光スポットはあるが、知名度に課題。体験型コンテンツも少ないので、新たなコンテンツの創出に取り組む。

但馬

【実施日時】令和4年5月17日

【参加団体】但馬観光協議会構成員

(豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町、豊岡観光協会、城之崎温泉観光協会、日高神鍋観光協会、出石観光協会、但東シルクロード観光協会、朝来市観光協会、香美町香住観光協会、香美町村岡観光協会、香美町小代観光協会、浜坂観光協会、湯村温泉観光協会、但馬ふるさとづくり協会、西日本旅客鉄道株式会社、全但バス株式会社、豊岡観光イノベーション 20団体20名)

- **豊岡市**ではコウノトリの野生復帰、ジオパークや靴産業といった地元のPR活動に取り組んでおり、最終的に観光産業に繋げていきたい。
- 食に着目するのであれば、**域内調達率をあげる**という方針も重要。**輸送距離も短くなってSDGsに繋がる。城崎温泉は域内調達率がかなり高いと思われ、これを可視化すれば欧米豪への訴求効果は高い。経営面の考慮に起因した沿線本数減少の危機感もあり、交通対策へも注力が必要**
- **神鍋**はスポーツ合宿が盛んだが、合宿や大会、林間学校等が軒並み中止になってしまい、**民宿も少し減った**。夏には、**涼しい神鍋に宿泊**してもらい、**海に遊びに行ってもらうスキーム作り**に取り組んでいる。来年2月のスキー発祥100周年を契機に記念事業を検討中。
- **出石**はアクセスが悪く、宿泊機能も弱いなか、**蕎麦のみ**で頑張っている状況であった。**歴史あるスポット**など、「**本物志向**」の観光客への親和性は高いため、**努力をしていきたい**。
- 「**2022たんとうチューリップまつり**」で多くの来訪があり、**回復の兆し**がある。しかし、スタッフも70歳以上の方が多など**マンパワーが不足・高齢化が課題**
- **朝来**はサイクリングや体験型の観光に力を入れたく、ターゲットを今後検討する。関東圏では兵庫よりも神戸、姫路などが認知度高い。
- **香住**では、コロナのなかでも、**町民花火大会**や**松葉ガニ祭り**など**従前のにぎわいの復活を望む**。インバウンドを見据えて**ポケット翻訳機**を民宿に配布したが、**高齢の経営者にとっては使用に不安感が多い**。
- 鹿児島でも「山は富士、桜は吉野、**牛は但馬**」という言葉を見かけたほど、**全国的に注目**されている。**村岡**でもまず**但馬牛を食べていただくことを第一**に考えている。但馬牛を食べていただいた後に**ルーツ**を訪ねてもらい、**感動するような体験**をし、**理解を深めて**いただきたい。
- **浜坂**でも**食が重要な点**となっており、民宿や漁協、商店とタイアップして**ここでしか食べられないようなもの**を提供しており、**リピート率はかなり高く、最高で8回のリピーターも存在**。**漁の方法**などの話に興味を持って来ていただける方も多い。
- 兵庫テロワール旅で来た方に、**リピートしてもらうには人が重要**。例えば「**かにソムリエ**」があり、カニを召し上がっていただく際に、**女将や亭主が説明**を行っている。**SDGs**でいうと、**湯村**では**ガスを使わない湯がく**という文化がある。家にも温泉が配湯されており、瞬間湯沸かし器がないということで、**化石燃料を使わない町**となっている。ワーケーションは「**課題解決型**」をテーマとし、地域の課題解決を参加者に一緒に考え、ビジネス機会の創出につなげるというコンセプトで取り組んでいる。ジャパノールパスのバスへの適用など、縦横で二次交通対策が必要。
- **新温泉町**でも**人に注目した観光**を推進しているので、**兵庫テロワール旅**で**食・人・ルーツに着目**していただいているのは大変ありがたい。コンテンツを作ろうとしても、**生産年齢人口が減っており、担い手がない**ことが課題だ。

丹波

【実施日時】令和4年6月14日

【参加団体】兵庫丹波観光ネットワーク推進委員会

(丹波篠山市、丹波市、丹波篠山観光協会、丹波市観光協会 4団体4名)

- コロナで観光スタイルが変わり、大型観光というよりも**気軽な旅**という概念になった。特に丹波の場合は、京阪神から気軽にドライブがてら、**1年に数回来ていただくような観光戦略**がふさわしいのではないかと。
- 兵庫県のなかでも**京都**や**大阪**と地理的に近いので、県内の縦の繋がりだけではなく横の**広域的な連携**をしていくことが重要だ。
- **秋のシーズンは多く来るが、他の時期**になると極端に入込客数が**少なくなる**。丹波が落ち込む12月、1月、2月に但馬はすごく賑わう。**海の幸の但馬**と**山の幸の丹波**で**連携**し、周遊してもらえば消費額が多くなるのではないかと。年間通じた大型観光施設はないが、**都会にはない山里に魅力**を感じてもらおう仕掛けなど、他の地域にはない**丹波ならではの強み**を光らせることが大事だ。
- **宿泊施設が少なく、ほとんどの方が日帰り**なのが現状。近年リニューアルした**町家**や**古民家**は夏休みなど流行っているが、**老舗旅館は設備投資の更新余力がない中、どのように来訪を促すか考える必要がある**。
- 今年になって**文化庁の100年フード**に**ぼたん鍋**が認定された。**映画「森の学校」**も静かなブームとなっており、全国から**聖地巡礼**でファンが訪れている。
- 網を張ったり、植え付けや収穫を体験してもらったうえで、黒豆や柿を食べてもらうなど、イノシシやシカの**獣害を資源に結びつける取組**をしている。
- 丹波でも**二次交通**は課題だ。**丹波篠山市**では昨年10月に、電気自動車による**グリーンスローモビリティの実証実験**を城下町で行い、今後も展開予定。**カーシェア**や**レンタカー**で、京都や大阪の方が**乗り捨て可能**になれば、周遊や二次交通が解決される可能性があるのではないかと。
- **丹波市の道の駅丹波おばあちゃんの里**が3月26日に**リニューアルオープン**をし、**多くの人**が集まっている。新たにできた**遊具**も人気で、単なるドライバーのための施設ではなく、**観光の核**となっている。ここを**拠点**に、**市内を周遊**してもらえるような取組を考えたい。

淡路

【実施日時】令和4年5月23日

【参加団体】淡路島総合観光戦略に係る担当者連絡協議会

(洲本市、南あわじ市、淡路市、淡路島くにうみ協会、淡路島観光協会 5団体16名)

- 「HYOGO」ブランドの向上とあるが、関東の人には「兵庫」があまり知られておらず、瀬戸内や関西といった圏域のなかでPRしていくほうが分かりやすい。
- 日帰りの方が多く、首都圏など遠隔地からの来客が少ない、慢性的な人材不足など県全体と課題は同じであり、淡路ではより極端となっている。また、コロナの影響が少なく、オーバーツーリズムの懸念もあるので、現状維持でもいいのではという機運があることも問題だ。
- 京都ではオーバーツーリズムが発生していることなども考慮すると、JSTS（日本版持続可能な観光ガイドライン）を踏まえ、観光客が増えることによつて問題が生じないようにする必要がある。特に淡路は車社会なので、渋滞が生じて地元の不満が募らないようにしなければならない。
- 大学に進学する段階で淡路島を出てしまい、その後帰ってこないため、慢性的な労働人口の不足に陥っている。特に観光業が盛んな淡路島では深刻であり、淡路海峡大橋ができたため、通勤や通学は便利になったが、逆に会社が進出してこないといった弊害も出ている。
- 通過型の観光が主であることを認容した上で、宿泊の増加に取り組みたい。
- 車で訪れることを前提に観光スポットが島内で分散しているので、新たな古民家カフェなども車でしか行けない場所にできており、徒歩で周遊できるような環境ではない。遠隔地の方の二次交通ということになると、沖縄や北海道のように、レンタカーを充実させる必要がある。
- 4月に岩屋ポートターミナルが供用を開始し、明石から船で来られる方は自転車やバイクも搭載可能となっている。自転車やバイクを持ってこられない方にどのように周遊してもらうかが課題だ。
- 高速バス「フットバス」が停まるようになったので、高松や難波からはアクセスがよい。淡路交通では、トランクに乗せて自転車の輸送も可能なので、こういった点をPRしていきたい。
- DCや万博を誘客の契機とするために、花と緑が豊かな環境づくりに取り組んでいる。毎年、淡路花祭を開催しており、幹線道路沿いの花街道づくりも支援している。7月から9月は花が弱いことが課題だと思っているので、何らか対策をしていきたい。
- 渦潮と淡路人形を活用してどのようにPRしていけるか考えていきたい。
- コロナ前は、特に洲本温泉へのバスでの団体旅行が多かったが、個人やグループで訪れる人が増えた。
- 洲本では神戸から近接していることを強みに、関係人口の取組を通じて人材不足への対応を行っていきたい。
- 東京と中之島にも洲本市のアンテナショップを開設したので、PRに努めていく。